



# ワークロードファクトリの管理

## Setup and administration

NetApp  
September 03, 2025

# 目次

ワークロードファクトリの管理	1
BlueXP ワークロードファクトリにログイン	1
サービスアカウントの管理	1
サービスアカウントを作成します	2
サービスアカウントを削除します	3
BlueXPワークロードファクトリー通知を構成する	3
通知の種類とメッセージ	3
ワークロードファクトリー通知を構成する	5
Amazon SNSトピックを購読する	6
通知をフィルタリングします	7
Codeboxを使用したタスクの自動化	8
コードボックス自動化の詳細	8
BlueXP ワークロードファクトリでの自動化にCodeboxを使用	9
BlueXP ワークロードファクトリでCloudShellを使用	12
タスクの内容	12
開始する前に	14
CloudShellを導入する	14
CloudShellセッションタブの名前変更	16
CloudShellセッションタブの複製	16
CloudShellセッションのタブを閉じる	17
CloudShellセッションタブの分割	17
最後のCloudShellセッションを再度開く	17
CloudShellセッションの設定の更新	17
BlueXP ワークロードファクトリからクレデンシャルを削除	18

# ワークロードファクトリの管理

## BlueXP ワークロードファクトリにログイン

BlueXP ワークロードファクトリにサインアップすると、Webベースのコンソールからいつでもログインして、ワークロードとFSx for ONTAPファイルシステムの管理を開始できます。

### タスクの内容

次のいずれかのオプションを使用して、Workload FactoryのWebベースコンソールにログインできます。

- 既存のNetApp Support Site (NSS) のクレデンシャルを必要に応じて変更
- Eメールアドレスとパスワードを使用したネットアップクラウドへのログイン

### 手順

1. Webブラウザを開き、に移動します **"ワークロードファクトリコンソール"**。
2. [ログイン]\*ページで、ログインに関連付けられている電子メールアドレスを入力します。
3. ログインに関連付けられている認証方法に応じて、クレデンシャルの入力を求められます。
  - ネットアップクラウドクレデンシャル：パスワードを入力します
  - フェデレーテッドユーザ：フェデレーテッドアイデンティティクレデンシャルを入力します
  - NetApp Support Site アカウント：NetApp Support Site クレデンシャルを入力します
4. [ログイン]\*を選択します。

過去に正常にログインした場合は、ワークロードファクトリのホームページが表示され、デフォルトのアカウントを使用します。

初めてログインする場合は、\*アカウント\*ページが表示されます。

- 1つのアカウントのメンバーである場合は、\*続行\*を選択します。
- 複数のアカウントのメンバーである場合は、アカウントを選択して\*続行\*を選択します。

### 結果

これでログインが完了し、ワークロードファクトリを使用してFSx for ONTAPファイルシステムとワークロードを管理できるようになります。

## サービスアカウントの管理

サービスアカウントを作成して、インフラの運用を自動化するマシンユーザとして機能させます。サービスアカウントへのアクセス権は、いつでも無効にしたり変更したりできます。

### タスクの内容

サービスアカウントは、BlueXP が提供するマルチテナンシー機能です。アカウント管理者は、サービスアカ

ウントの作成、アクセスの制御、およびサービスアカウントの削除を行います。サービスアカウントは、BlueXP コンソールまたはBlueXP ワークロードファクトリコンソールで管理できます。

クライアントシークレットを再作成できるBlueXP でサービスアカウントを管理するのとは異なり、ワークロードファクトリではサービスアカウントの作成と削除のみがサポートされます。BlueXP ワークロードファクトリコンソールで特定のサービスアカウントのクライアントシークレットを再作成する場合は[サービスアカウントの削除](#)、を実行する必要があります[新規作成](#)。

サービスアカウントは、パスワードではなくクライアントIDとシークレットを認証に使用します。クライアントIDとシークレットは、アカウント管理者が変更を決定するまで修正されます。サービスアカウントを使用するには、アクセストークンを生成するためにクライアントIDとシークレットが必要です。そうしないとアクセスできません。アクセストークンは短命であり、数時間しか使用できないことに注意してください。

開始する前に

サービスアカウントをBlueXP コンソールで作成するか、BlueXP ワークロードファクトリコンソールで作成するかを決定します。わずかな違いがあります。次の手順では、BlueXP ワークロードファクトリコンソールでサービスアカウントを管理する方法について説明します。

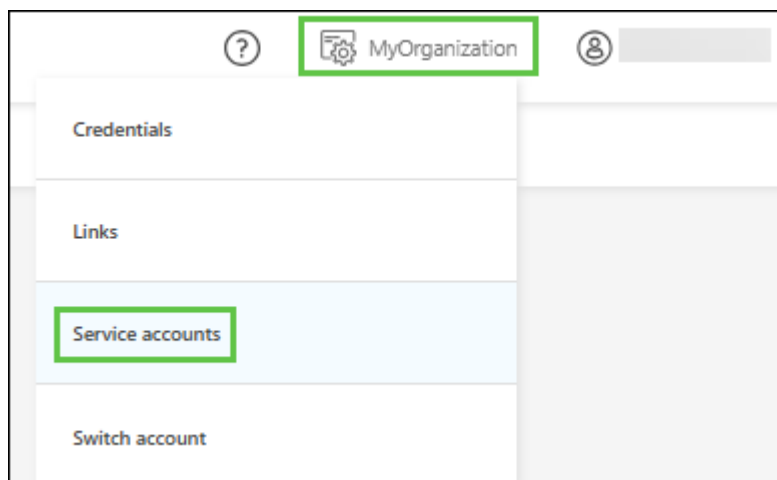
BlueXP でサービスアカウントを管理するには、"[BlueXP のアイデンティティ管理とアクセス管理の詳細](#)"および"[BlueXP IAMメンバーを追加して権限を管理する方法について説明します。](#)"を使用します。

## サービスアカウントを作成します

サービスアカウントを作成する際、BlueXP ワークロードファクトリでは、サービスアカウントのクライアントIDとクライアントシークレットをコピーまたはダウンロードできます。このキーペアは、BlueXP ワークロードファクトリでの認証に使用されます。

手順

1. ワークロードファクトリコンソールで、**【アカウント】\*アイコン**を選択し、**【サービスアカウント】\***を選択します。



2. **【サービスアカウント】**ページで、**【サービスアカウントの作成】\***を選択します。
3. Create service account（サービスアカウントの作成）ダイアログで、\* Service account name（サービスアカウント名）\*フィールドにサービスアカウントの名前を入力します。

role は、account admin \*として事前に選択されています。

4. 「 \* Continue \* 」を選択します。
5. クライアント ID とクライアントシークレットをコピーまたはダウンロードします。

クライアントシークレットは一度だけ表示され、Workload Factoryのどこにも格納されません。シークレットをコピーまたはダウンロードして安全に保管します。

6. 必要に応じて、クライアントの資格情報交換を実行することで、Auth0管理APIのアクセストークンを取得できます。curlの例は、クライアントIDとシークレットを取得し、APIを使用して時間制限のあるアクセストークンを生成する方法を示しています。このトークンを使用すると、BlueXP ワークロードファクトリーAPIに数時間アクセスできます。
7. [ 閉じる ( Close ) ]を選択します。

新しいサービスアカウントが作成され、[サービスアカウント]ページに表示されます。

## サービスアカウントを削除します

不要になったサービスアカウントを削除します。

### 手順

1. Workload Factoryコンソールで、**[Account]\***アイコンを選択し、[Service accounts]\*を選択します。
2. [サービスアカウント]ページで、3ドットのメニューを選択し、\*[削除]\*を選択します。
3. [サービスアカウントの削除]ダイアログで、テキストボックスに「\* delete \*」と入力します。
4. 削除\*を選択して削除を確定します。

サービスアカウントが削除されます。

## BlueXPワークロードファクトリー通知を構成する

BlueXP ワークロードファクトリー通知サービスを設定して、BlueXP アラートサービスまたは Amazon SNS トピックに通知を送信できます。BlueXPアラートに送信された通知は、BlueXP アラートパネルに表示されます。ワークロードファクトリーが Amazon SNS トピックに通知を発行すると、トピックのサブスクライバー（ユーザーや他のアプリケーションなど）は、トピックに設定されたエンドポイント（E メールや SMS メッセージなど）で通知を受け取ります。

### 通知の種類とメッセージ

ワークロード ファクトリーは、次のイベントの通知を送信します。

イベント	製品説明	通知のタイプ	重大度	ワークロード	リソースタイプ
アカウント内の一部のデータベースインスタンスは適切に設計されていません	アカウント内のすべてのMicrosoft SQL Serverインスタンスについて、Well-Architectedの問題が分析されました。このイベントの説明には、Well-Architectedインスタンスと最適化されていないインスタンスの数が表示されます。ワークロードファクトリーコンソールのデータベースインベントリで、Well-Architectedステータスの調査結果と推奨事項を確認してください。	優れた設計	推奨事項	データベース	Microsoft SQL Serverインスタンス
Microsoft SQL Server/PostgreSQL サーバーの展開に成功しました	Microsoft SQL Server または PostgreSQL ホストのデプロイに成功しました。詳細については、ジョブ監視を参照してください。	導入	成功	データベース	FSx for ONTAP、DBホスト
Microsoft SQL Server/PostgreSQL サーバーの展開に失敗しました	Microsoft SQL Server または PostgreSQL ホストのデプロイに失敗しました。詳細については、ジョブ監視を参照してください。	導入	エラー	データベース	FSx for ONTAP、DBホスト

イベント	製品説明	通知のタイプ	重大度	ワークロード	リソースタイプ
レプリケーション関係の作成に失敗しました	SnapMirrorレプリケーション関係の作成に失敗しました。詳細については、Tracker をご覧ください。	レプリケーション	致命的	一般的な保管	ONTAP向け FSx
FSx for ONTAP の作成失敗	FSx for ONTAP ファイル システムの作成プロセスが失敗しました。詳細については、Tracker をご覧ください。	FSx for ONTAP ファイルシステムアクション	致命的	一般的な保管	ONTAP向け FSx

## ワークロードファクトリー通知を構成する

BlueXPコンソールまたはワークロードファクトリーコンソールを使用して、ワークロードファクトリーの通知を設定します。BlueXPコンソールを使用する場合は、BlueXPアラートまたはAmazon SNSトピックに通知を送信するようにワークロードファクトリーを設定できます。BlueXPアラートは、BlueXPの\*アラートと通知設定\*領域から設定できます。

### 開始する前に

- Amazon SNS コンソールまたはAWS CLI を使用して、Amazon SNS を設定し、Amazon SNS トピックを作成する必要があります。
- ワークロードファクトリーは\*標準\*トピックタイプをサポートしています。このタイプのトピックでは、通知が受信順にサブスクライバーに送信されるとは限りません。そのため、重要な通知や緊急の通知がある場合は、このタイプを検討してください。

## BlueXPコンソールから通知を設定する

### 手順

1. にログインし **"BlueXPコンソール"**ます。
2. 左側のナビゲーションから\*[ワークロード]\*を選択します。
3. を選択してすべてのワークロードを表示するか、[ストレージ]や[データベース]\*などのワークロードを1つ選択します。
4. ワークロード ファクトリーのメニュー バーから、構成メニューを選択します。
5. メニューで、\*Workload Factory 通知設定\*を選択します。
6. オプション: **BlueXP** 通知を有効にする を選択して、ワークロード ファクトリーが BlueXP アラートに通知を送信するように構成します。
7. \*SNS通知を有効にする\*を選択します。
8. Amazon SNS コンソールから Amazon SNS を設定するには、指示に従います。

トピックを作成したら、トピック ARN をコピーして、通知設定\*ダイアログの\*SNS トピック ARN フィールドに入力します。

9. テスト通知を送信して構成を確認した後、[適用] を選択します。

### 結果

ワークロードファクトリーは、指定した Amazon SNS トピックに通知を送信するように設定されています。

## ワークロードファクトリーコンソールから通知を構成する

### 手順

1. にログインし **"ワークロードファクトリーコンソール"**ます。
2. 上部のナビゲーション バーからアカウント メニューを開きます。
3. メニューで\*通知設定\*を選択します。
4. \*SNS通知を有効にする\*を選択します。
5. Amazon SNS コンソールから Amazon SNS を設定するには、指示に従います。
6. テスト通知を送信して構成を確認した後、[適用] を選択します。

### 結果

ワークロードファクトリーは、指定した Amazon SNS トピックに通知を送信するように設定されています。

## Amazon SNSトピックを購読する

トピックに通知を送信するようにワークロードファクトリーを構成したら、**"説明書"** Amazon SNS ドキュメントの手順に従ってトピックをサブスクライブし、ワークロードファクトリーから通知を受信できるようにします。



## 通知をフィルタリングします

通知にフィルターを適用することで、不要な通知トラフィックを削減し、特定のユーザーに特定の通知タイプを絞り込むことができます。これは、SNS通知にはAmazon SNSポリシーを使用し、BlueXP通知にはBlueXP通知設定を使用することで実現できます。

### Amazon SNS通知をフィルタリングする

Amazon SNS トピックをサブスクライブすると、デフォルトでそのトピックに公開されたすべての通知を受信します。トピックから特定の通知のみを受信する場合は、フィルター ポリシーを使用して、受信する通知を制御できます。フィルタポリシーにより、Amazon SNS はフィルタポリシーに一致する通知のみをサブスクライバーに配信します。

Amazon SNS 通知は、次の基準でフィルタリングできます。

製品説明	フィルターポリシーフィールド名	可能な値
リソースタイプ	resourceType	<ul style="list-style-type: none"><li>DB</li><li>Microsoft SQL Server host</li><li>PostgreSQL Server host</li></ul>
ワークロード	workload	WLMDB
優先度	priority	<ul style="list-style-type: none"><li>Success</li><li>Info</li><li>Recommendation</li><li>Warning</li><li>Error</li><li>Critical</li></ul>
通知のタイプ	notificationType	<ul style="list-style-type: none"><li>Deployment</li><li>Well-architected</li></ul>

### 手順

1. Amazon SNS コンソールで、SNS トピックのサブスクリプションの詳細を編集します。
2. サブスクリプション フィルター ポリシー 領域で、メッセージ属性 でフィルターすることを選択します。
3. サブスクリプション フィルター ポリシー オプションを有効にします。
4. **JSON** エディター ボックスに JSON フィルター ポリシーを入力します。

たとえば、次の JSON フィルター ポリシーは、WLMDB ワークロードに関連し、優先度が成功またはエラーであり、Well-architected ステータスの詳細を提供する Microsoft SQL Server リソースからの通知を受け入れます。

```
{
  "accountId": [
    "account-a"
  ],
  "resourceType": [
    "Microsoft SQL Server host"
  ],
  "workload": [
    "WLMDB"
  ],
  "priority": [
    "Success",
    "Error"
  ],
  "notificationType": [
    "Well-architected"
  ]
}
```

5. \*変更を保存\*を選択します。

その他のフィルタポリシーの例については、以下を参照してください。 ["Amazon SNS のフィルターポリシーの例"](#)。

フィルタポリシーの作成の詳細については、 ["Amazon SNSのドキュメント"](#)。

### BlueXP通知をフィルタリングする

BlueXP のアラートおよび通知設定を使用すると、BlueXP で受信するアラートと通知を重大度レベル (重大、情報、警告など) でフィルタリングできます。

BlueXPでの通知フィルタリングの詳細については、 ["BlueXPのマニュアル"](#)。

## Codeboxを使用したタスクの自動化

### コードボックス自動化の詳細

Codeboxは、Infrastructure as Code (IAC) の共同パイロットであり、開発者とDevOpsがワークロードファクトリでサポートされているすべての処理を実行するために必要なコードを生成するのに役立ちます。Codebox は、ワークロード ファクトリーの動作モード (基本、読み取り専用、読み取り/書き込み) に合わせて調整されており、実行準備のための明確なパスを設定するとともに、将来の迅速な再利用のための自動化カタログを提供します。

## Codeboxの機能

Codeboxには、次の2つの主要なIAC機能があります。

- Codeboxビューア グラフィカルウィザードまたは会話型チャットインターフェイスからエントリと選択を一致させることで、特定のジョブフロー操作によって生成されるIACを表示します。Codebox Viewerは、ナビゲーションと分析を容易にするためにカラーコーディングをサポートしていますが、編集は許可されておらず、オートメーションカタログへのコードのコピーまたは保存のみが許可されています。
- Codebox Automation Catalog 保存されているすべてのIACジョブを表示し、将来の使用に備えて簡単に参照できるようにします。自動カタログジョブはテンプレートとして保存され、適用されるリソースのコンテキストで表示されます。

さらに、ワークロードファクトリクレデンシャルを設定する場合、CodeboxはIAMポリシーの作成に必要なAWS権限を動的に表示します。権限は、使用する予定のワークロードファクトリ機能(データベース、AI、FSx for ONTAP など)ごとに提供され、ポリシーのユーザーが読み取り専用権限を取得するか、完全な読み取り/書き込み権限を取得するかに基づいてカスタマイズされます。Codeboxから権限をコピーしてAWS管理コンソールに貼り付けるだけで、ワークロードファクトリにワークロードを管理するための適切な権限が付与されます。

### サポートされるコード形式

サポートされているコード形式は次のとおりです。

- ワークロードファクトリREST API
- AWS CLI
- AWS CloudFormation


"[Codeboxの使用方法](#)"です。

## BlueXP ワークロードファクトリでの自動化にCodeboxを使用

Codeboxを使用して、BlueXP ワークロードファクトリでサポートされている操作を実行するために必要なコードを生成できます。ワークロードファクトリREST API、AWS CLI、およびAWS CloudFormationを使用して、使用および実行可能なコードを生成できます。

Codeboxは、各ユーザーのワークロードファクトリアカウントに提供されたAWS権限に基づいてコードに適切なデータを入力することで、ワークロードファクトリーの操作モード(基本、読み取り専用、および読み取り/書き込み)と連携します。コードは、コードを実行する前に不足している情報(資格情報など)を入力したり、特定のデータをカスタマイズしたりできるテンプレートのように使用できます。

### Codeboxの使用方法

Workload Factory UIウィザードで値を入力すると、各フィールドに入力すると、[コードボックス]にデータの更新が表示されます。ウィザードを完了したら、ページ下部の\*作成\*ボタンを選択する前に、[コードボックスにコピー]を選択して、 構成の構築に必要なコードを取得します。たとえば、新しいMicrosoft SQL Serverを作成した場合のスクリーンショットには、VPCゾーンとアベイラビリティゾーンのウィザードエントリと、REST API実装のCodeboxの同等のエントリが示されています。

The screenshot shows the 'Create new Microsoft SQL server' wizard in the AWS Management Console. The wizard has several sections: 'Region & VPC' (us-east-1 | US East (N. Virginia) | VPC-1 | 172.30.0.0/20), 'Availability zones' (with instructions), 'Cluster configuration - Node 1' (Availability zone: us-east-1d, Subnet: HCL-CC-1 | 192.168.16.0/24), 'Cluster configuration - Node 2' (Availability zone: us-east-2d, Subnet: HCL-CC-2 | 192.168.17.0/24), and 'Security group' (Use an existing security group | sg-ad2b38d1). On the right, the 'Codebox' interface shows a 'Create database' section with a 'REST API' tab. A 'Copy' button is visible at the top right of the Codebox. The Codebox contains a JSON template for a REST API, with green arrows pointing from the wizard's configuration fields to the corresponding fields in the JSON template.

一部のコードフォーマットでは、[ダウンロード]ボタンを選択して、別のシステムに持ち込むことができるファイルにコードを保存することもできます。必要に応じて、ダウンロード後にコードを編集して、他のAWSアカウントに適応させることができます。

## CodeboxからCloudFormationコードを使用

Codeboxから生成されたCloudFormationコードをコピーし、AWSアカウントでAmazon Web Services CloudFormationスタックを起動できます。CloudFormationは、ワークロードファクトリのUIで定義したアクションを実行します。

CloudFormationコードを使用する手順は、FSx for ONTAPファイルシステムの導入、アカウントのクレデンシャルの作成、またはその他のワークロードファクトリアクションの実行によって異なる場合があります。

CloudFormationによって生成されたYAMLファイル内のコードは、セキュリティ上の理由から7日後に期限切れになります。

### 開始する前に

- AWSアカウントにログインするにはクレデンシャルが必要です。
- CloudFormationスタックを使用するには、次のユーザー権限が必要です。

```

{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "cloudformation:CreateStack",
        "cloudformation:UpdateStack",
        "cloudformation>DeleteStack",
        "cloudformation:DescribeStacks",
        "cloudformation:DescribeStackEvents",
        "cloudformation:DescribeChangeSet",
        "cloudformation:ExecuteChangeSet",
        "cloudformation:ListStacks",
        "cloudformation:ListStackResources",
        "cloudformation:GetTemplate",
        "cloudformation:ValidateTemplate",
        "lambda:InvokeFunction",
        "iam:PassRole",
        "iam:CreateRole",
        "iam:UpdateAssumeRolePolicy",
        "iam:AttachRolePolicy",
        "iam:CreateServiceLinkedRole"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}

```

#### 手順

1. UIを使用して実行する操作を定義したら、[コードボックス]のコードをコピーします。
2. [Redirect to CloudFormation]\*を選択すると、[Redirect to CloudFormation]ページが表示されます。
3. 別のブラウザウィンドウを開き、AWS管理コンソールにログインします。
4. [Redirect to CloudFormation]ページから[Continue]\*を選択します。
5. コードを実行するAWSアカウントにログインします。
6. [Quick create stack]ページの[Capabilities]で、\*[I acknowledge that AWS CloudFormation may...]\*を選択します。
7. [スタックの作成]\*を選択します。
8. AWSまたはワークロード工場から進捗状況を監視

## CodeboxからREST APIコードを使用する

Codeboxから生成されたワークロードファクトリREST APIを使用して、FSx for ONTAPファイルシステムやその他のAWSリソースを導入および管理できます。

APIは、curlをサポートし、インターネットに接続された任意のホストから実行できます。

認証トークンはCodeboxでは非表示になっていますが、API呼び出しをコピーして貼り付けると入力されます。

### 手順

1. UIを使用して実行する処理を定義したら、[コードボックス]にAPIコードをコピーします。
2. コードを貼り付けて、ホストシステムで実行します。

## CodeboxからAWS CLIコードを使用

Codeboxから生成されたAmazon Web Services CLIを使用して、FSx for ONTAPファイルシステムやその他のAWSリソースを導入および管理できます。

### 手順

1. UIを使用して実行する処理を定義したら、[Codebox]でAWS CLIをコピーします。
2. 別のブラウザウィンドウを開き、AWS管理コンソールにログインします。
3. コードを貼り付けて実行します。

## コードボックスからTerraformを使用

Terraformを使用して、FSx for ONTAPファイルシステムやその他のAWSリソースを導入、管理できます。

### 開始する前に

- Terraformがインストールされているシステム(Windows/Mac/Linux)が必要です。
- AWSアカウントにログインするにはクレデンシャルが必要です。

### 手順

1. ユーザーインターフェイスを使用して実行する操作を定義したら、コードボックスからTerraformコードをダウンロードします。
2. ダウンロードしたスクリプトアーカイブをTerraformがインストールされているシステムにコピーします。
3. zipファイルを展開し、README.mdファイルの手順に従います。

## BlueXP ワークロードファクトリでCloudShellを使用

CloudShellを開き、BlueXP ワークロードファクトリのユーザインターフェイスの任意の場所からAWSまたはONTAP CLIコマンドを実行します。

### タスクの内容

CloudShellを使用すると、BlueXP ワークロードファクトリのユーザインターフェイス内から、シェルのような環境でAWS CLIコマンドまたはONTAP CLIコマンドを実行できます。ブラウザで端末セッションをシミュ

レートし、端末機能を提供し、ワークロードファクトリのバックエンドを介してメッセージをプロキシします。BlueXP アカウントで指定したAWSクレデンシャルとONTAPクレデンシャルを使用できます。

CloudShellには次の機能があります。

- 複数のCloudShellセッション：複数のCloudShellセッションを一度に展開して、複数のコマンドシーケンスを並行して発行します。
- 複数のビュー：CloudShellタブセッションを分割して、2つ以上のタブを水平または垂直に同時に表示できるようにします。
- セッション名の変更:必要に応じてセッション名を変更
- Last session content persistence（前回のセッションのコンテンツの永続性）：誤って閉じた場合は、最後のセッションを再度開きます。
- 設定の環境設定:フォントサイズと出力タイプの変更
- ONTAP CLIコマンドに対するAIが生成するエラー応答
- オートコンプリートのサポート：コマンドの入力を開始し、\* Tab \*キーを使用して使用可能なオプションを表示します。

## CloudShellコマンド

CloudShell GUIインターフェイス内で、と入力して使用可能なCloudShellコマンドを表示できます `help`。コマンドを実行すると `help`、次のリファレンスが表示されます。

### 製品説明

NetApp CloudShellは、BlueXP ワークロードファクトリに組み込まれたGUIインターフェイスであり、シェルのような環境でAWS CLIコマンドまたはONTAP CLIコマンドを実行できます。ブラウザでターミナルセッションをシミュレートし、ターミナル機能を提供し、ワークロードファクトリのバックエンドを介してメッセージをプロキシします。これにより、BlueXP アカウントで指定したAWSクレデンシャルとONTAPクレデンシャルを使用できます。

### 使用可能なコマンド

- `clear`
- `help`
- `[--fsx <fsxId>] <ontap-command> [parameters]`
- `aws <aws-command> <aws-sub-command> [parameters]`

### コンテキスト

各ターミナルセッションは、クレデンシャル、リージョン、およびオプションでFSx for ONTAPファイルシステムという特定のコンテキストで実行されます。

すべてのAWSコマンドは、指定されたコンテキストで実行されます。AWSコマンドは、指定したクレデンシャルに指定したリージョンの権限がある場合にのみ成功します。

オプションでONTAPコマンドを指定できます `fsxId`。に個別のONTAPコマンドを指定した場合、`fsxId`` このIDはコンテキスト内のIDよりも優先されます。ターミナルセッションにFSx for ONTAPファイルシステムIDコンテキストがない場合は、各ONTAPコマンドを指定する必要があります ``fsxId`。

異なるコンテキストの仕様を更新するには、次の手順を実行します。クレデンシャルを変更するには："ク

レデンシアルの使用<credentialId>"リージョンを変更するには："リージョン<regionCode>の使用" FSx for ONTAPファイルシステムを変更するには："FSx <fileSystemId>の使用"

### アイテムの表示

- 使用可能な認証情報を表示するには："show credentials"
- 利用可能な地域を表示するには："show regions"
- コマンド履歴を表示するには："show history"

### 変数

変数の設定と使用例を次に示します。変数の値にスペースが含まれている場合は、引用符で囲んで設定してください。

- 変数を設定するには：<variable>=<value>
- 変数を使用するには:<variable>
- 変数の設定例：\$svm1=svm123
- 変数を使用する例：--fsx filesystem-1 volumes show --vserver \$svm1
- 例：文字列値\$Comment1 ="A comment with spaces"

### 運用者

パイプ、バックグラウンド実行 &、リダイレクト `>`などのシェル演算子は `|` サポートされていません。これらの演算子を含めると、コマンドの実行は失敗します。

### 開始する前に

CloudShellは、AWSクレデンシアルのコンテキストで機能します。CloudShellを使用するには、AWSクレデンシアルを少なくとも1つ指定する必要があります。



CloudShellを使用すると、AWSまたはONTAPの任意のCLIコマンドを実行できます。ただし、FSx for ONTAPファイルシステムのコンテキスト内で作業する場合は、必ず次のコマンドを実行してください。 `using fsx <file-system-name>`



### CloudShellを導入する

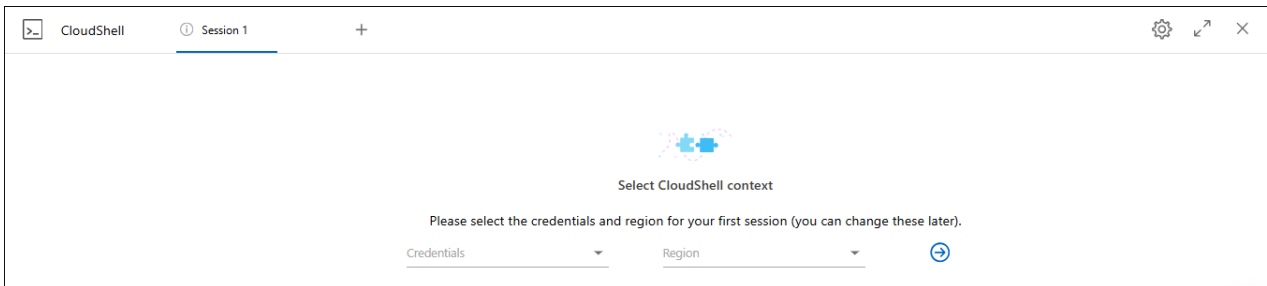
BlueXP ワークロードファクトリコンソールのどこからでもCloudShellを導入できます。FSx for ONTAPファイルシステム内からストレージからCloudShellを導入することもできます。



## ワークロードファクトリコンソールから導入

### 手順

1. いずれかを使用してログインし["コンソールエクスペリエンス"](#)ます。
2.  上部ナビゲーションバーからCloudShellを開き  ます。
3. [CloudShell]ウィンドウで、CloudShellセッションのクレデンシャルとリージョンを選択し、矢印を選択して続行します。



4. と入力し `help` で使用可能なコマンドと手順を表示するか、次のCLIリファレンスマニュアルを参照して[CloudShellコマンド](#)ください。
  - ["AWS CLIリファレンス"](#)：FSx for ONTAPに関連するコマンドについては、\* FSx \*を選択します。
  - ["ONTAP CLIリファレンス"](#)
5. CloudShellセッション内でコマンドを発行します。

ONTAP CLIコマンドの実行後にエラーが発生した場合は、電球のアイコンを選択すると、AIによって生成された簡単なエラー応答と、障害の説明、障害の原因、および詳細な解決策が表示されます。詳細については、[\\*\[続きを読む\]\\*](#)を選択してください。

## ストレージからの導入

### 手順

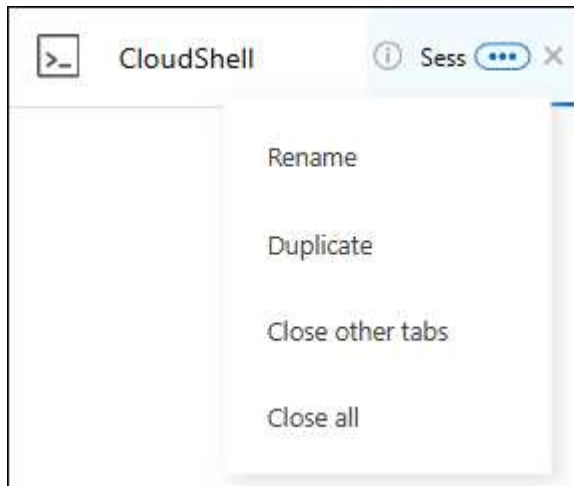
1. いずれかを使用してログインし["コンソールエクスペリエンス"](#)ます。
2. で、[\[ストレージインベントリに移動\]\\*](#)を選択します。
3. FSx for ONTAP タブで、ファイルシステムの3ドットメニューを選択し、[\[Open CloudShell\]\\*](#)を選択します。

選択したファイルシステムのコンテキストでCloudShellセッションが開きます。

4. と入力し `help` で使用可能なCloudShellコマンドとその手順を表示するか、使用可能なコマンドについては次のCLIリファレンスドキュメントを参照してください。
  - ["AWS CLIリファレンス"](#)：FSx for ONTAPに関連するコマンドについては、\* FSx \*を選択します。
  - ["ONTAP CLIリファレンス"](#)
5. CloudShellセッション内でコマンドを発行します。

ONTAP CLIコマンドの実行後にエラーが発生した場合は、電球のアイコンを選択すると、AIによって生成された簡単なエラー応答と、障害の説明、障害の原因、および詳細な解決策が表示されます。詳細については、\*[続きを読む]\*を選択してください。

このスクリーンショットに示されているCloudShellタスクは、開いているCloudShellセッションタブの3ドットメニューを選択することで完了できます。これらの各タスクの手順は次のとおりです。



## CloudShellセッションタブの名前変更

CloudShellセッションタブの名前を変更して、セッションを識別しやすくなることができます。

### 手順

1. CloudShellセッションタブの3ドットメニューを選択します。
2. [名前の変更\*]を選択します。
3. セッションタブの新しい名前を入力し、タブ名の外側をクリックして新しい名前を設定します。

### 結果

CloudShellセッションタブに新しい名前が表示されます。

## CloudShellセッションタブの複製

CloudShellセッションタブを複製して、同じ名前、クレデンシャル、およびリージョンを持つ新しいセッションを作成できます。元のタブのコードは、複製されたタブでは複製されません。

### 手順

1. CloudShellセッションタブの3ドットメニューを選択します。
2. [複製]\*を選択します。

### 結果

新しいタブが元のタブと同じ名前が表示されます。

## CloudShellセッションのタブを閉じる

CloudShellタブを一度に1つずつ閉じたり、作業していない他のタブを閉じたり、すべてのタブを一度に閉じることができます。

### 手順

1. CloudShellセッションタブの3ドットメニューを選択します。
2. 次のいずれかを選択します。
  - [CloudShell]タブウィンドウで[X]を選択して、一度に1つのタブを閉じます。
  - 作業中のタブを除く、開いている他のすべてのタブを閉じるには、\*[他のタブを閉じる]\*を選択します。
  - すべてのタブを閉じるには、\*すべてのタブを閉じる\*を選択します。

### 結果

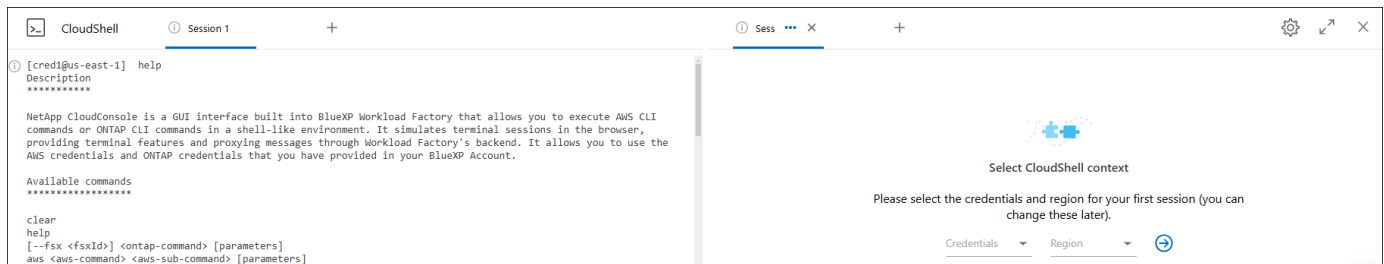
選択したCloudShellセッションタブが閉じます。

## CloudShellセッションタブの分割

CloudShellセッションのタブを分割して、複数のタブを同時に表示できます。

### ステップ


CloudShellウィンドウの上部、下部、左、または右にCloudShellセッションタブをドラッグアンドドロップして、ビューを分割します。



## 最後のCloudShellセッションを再度開く

誤ってCloudShellセッションを閉じた場合は、再度開くことができます。

### ステップ

から[CloudShell]アイコンを選択し上部ナビゲーションバーます。

### 結果

最新のCloudShellセッションが開きます。

## CloudShellセッションの設定の更新

CloudShellセッションのフォントおよび出力タイプの設定を更新できます。

## 手順

1. CloudShellセッションをデプロイします。
2. [CloudShell]タブで、設定アイコンを選択します。

設定ダイアログが表示されます。

3. 必要に応じてフォントサイズと出力タイプを更新します。



エンリッチ化された出力は、JSONオブジェクトとテーブルの書式設定に適用されます。その他の出力はすべてプレーンテキストで表示されます。

4. \* 適用 \* を選択します。

## 結果

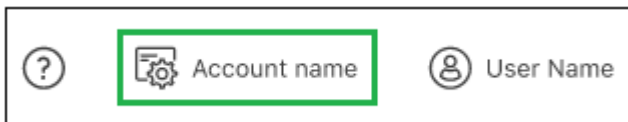
CloudShell設定が更新されます。

# BlueXP ワークロードファクトリからクレデンシャルを削除

一連のクレデンシャルが不要になった場合は、ワークロードファクトリから削除できます。削除できるのは、FSx for ONTAPファイルシステムに関連付けられていないクレデンシャルだけです。

## 手順

1. いずれかを使用してログインし"コンソールエクスペリエンス"ます。
2. [クレデンシャル]\*ページに移動します。
  - a. ワークロードファクトリコンソールで、[アカウント]\*アイコンを選択し、[クレデンシャル]\*を選択します。



アイコンを示すスクリーンショット。"]

- b. BlueXP コンソールで、[設定]\*アイコンを選択し、[クレデンシャル]\*を選択します。
3. ページで、一連のクレデンシャルのアクションメニューを選択し、[削除]\*を選択します。
  4. [削除]\*を選択して確定します。

## 著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。